



海外の動向

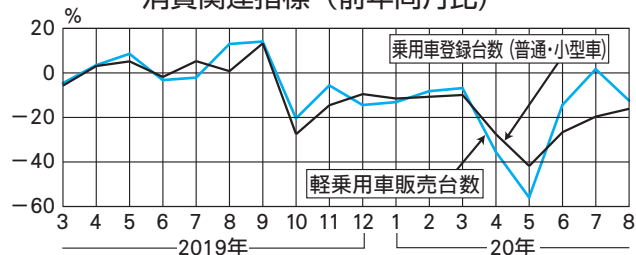
中国、新型コロナからの景気回復で欧米に先行

米国の4～6月期の実質GDP(確定値)は、年率換算で前期比31.4%減と、改定値の同31.7%減から0.3ポイント上方修正されたものの、統計史上最大のマイナス成長であることに変わりはない。

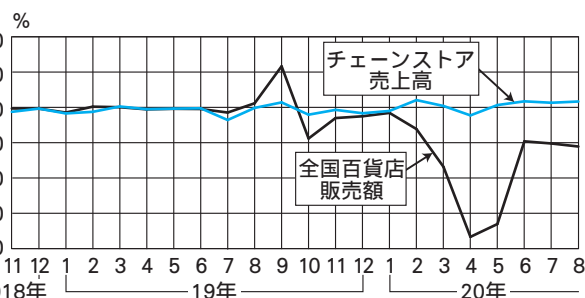
ユーロ圏の4～6月期の実質GDP(確定値)も、年率換算で前期比39.4%減と、改定値の同40.3%減から0.9ポイント上方修正されたが、記録上で最悪の落ち込みであることは変わらず。

一方、中国は、8月の主要経済統計で、工業生産が5か月連続で前年同月を上回ったほか、小売売上高も新型コロナウイルス感染拡大以降初めて前年同月比増加に転じた。固定資産投資は伸び率が依然前年を下回っているが、マイナス幅は前月より縮小し、改善が進んでいる。

消費関連指標 (前年同月比)



資料：自販連 (普通・小型車)・軽自動車協会 (軽乗用車)



資料：百貨店協会・チェーンストア協会

国内の動向

国内景気は5月を底に持ち直しの動きが続く

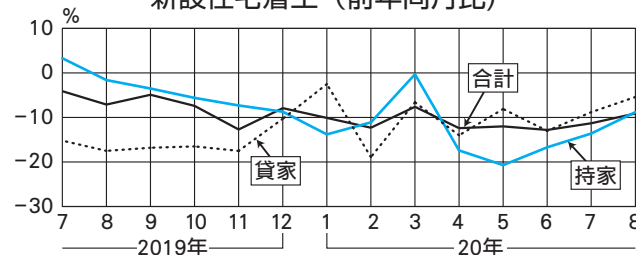
内閣府は9月の月例経済報告で、国内景気は「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる」とし、7月から3か月連続で総括判断を据え置いた。個別項目では、

「個人消費」と「設備投資」を下方修正する一方、「輸出」と「生産」の判断は引き上げた。

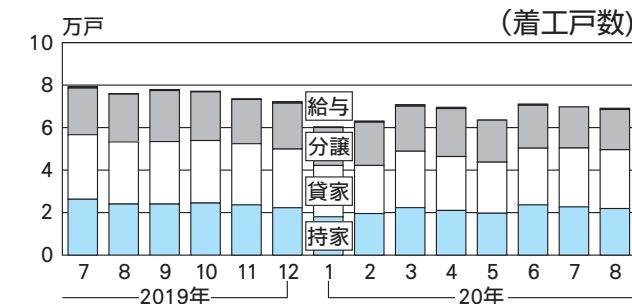
一方、内閣府が発表した4～6月期の実質GDP(改定値)は年率換算で前期比28.1%減と、速報値の同27.8%減から0.3ポイント下方修正され、落ち込み幅がさらに拡大した。

8月の有効求人倍率は前月比0.04ポイント低下の1.04倍と、2014年1月以来6年7か月ぶりの低水準となった。完全失業率は前月比0.1ポイント上昇(悪化)の3.0%だった。

新設住宅着工 (前年同月比)



資料：建築着工統計調査報告



資料：建築着工統計調査報告

個人消費は落ち込み幅が再び拡大

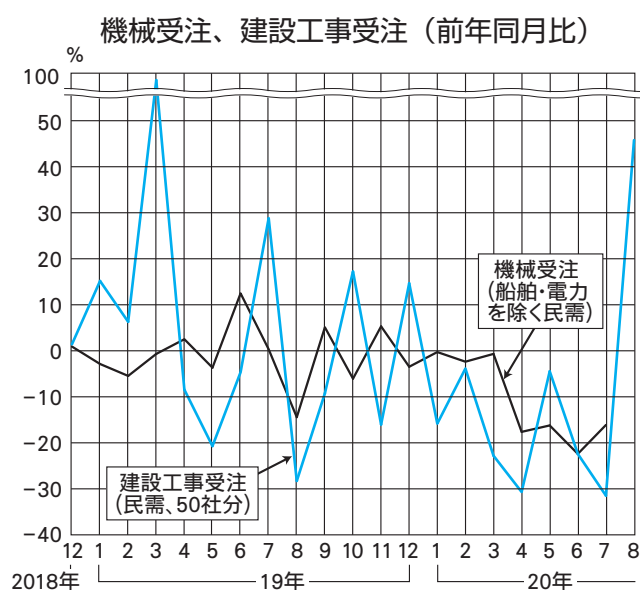
7月の家計調査（二人以上世帯）では、実質消費支出が前年比7.6%減と10か月連続で前年を下回り、減少率も前月の1.2%減から再び拡大した。新型コロナウイルスの感染再拡大や長雨など天候不順により、旅行費や自動車購入費、鉄道・航空運賃、外食等の支出が減少した。

8月の販売関連の統計では、百貨店が前年比22.0%減と11か月連続で前年を下回ったものの、スーパーは同3.3%増と4か月連続で前年を上回った。新型コロナウイルスの感染再拡大や記録的猛暑により消費者の外出自粛傾向が強まり、食料品以外の品目の落ち込みが大きかった。

一方、乗用車は前年比16.1%減と11か月連続で減少し、軽乗用車も同12.4%減と2か月ぶりに前年を下回った。

住宅着工は14か月連続で前年比減少

8月の新設住宅着工戸数は、前年比9.1%減の69,101戸と14か月連続で前年を下回った。持家が同8.8%減、貸家が同5.4%減、分譲住宅が同15.9%減と、いずれも前年を下回った。



設備投資は「減少傾向にある」

7月の機械受注統計では、設備投資の先行指標となる「船舶・電力を除く民需」の受注額が7,513億円、前月比6.3%増と2か月ぶりに増加した。うち製造業は同5.0%増と2か月連続の増加、非製造業は同3.4%増と2か月ぶりの増加となった。「窯業・土石製品」製造業や「不動産業」などで受注が増加した。内閣府は、基調判断を「減少している」から「減少傾向にある」に変更した。

鉱工業生産は「持ち直している」

8月の鉱工業生産指数速報値は、前月比1.7%上昇の88.7だった。国内外の経済活動再開とともない、3か月連続の上昇となった。全15業種中、「生産用機械工業」等4業種が前月より低下、「その他工業」1業種が横這いとなったものの、「自動車工業」等10業種が前月より上昇した。先行き生産予測は、9月が5.7%上昇、10月は2.9%上昇の見込み。経産省は生産の基調判断を、前月の「持ち直しの動きがみられる」から「持ち直している」へと上方修正した。

